馬術部監督

大塚　まりこ

（昭和四四年卒）

## 監督挨拶

日頃、現役活動にご理解、ご協力を賜り誠にありがとうございます。大正十二年に創部された馬術部が歴史を積み上げ、今日に至れましたことは、青山学院の諸先生方、馬術界の皆様、ご協力下さった方々、馬術部ＯＢ、ＯＧの皆様とありとあらゆる大勢の方々のお力添えのお陰と感謝し、心より御礼を申し上げます。

記念すべきこの年に、監督として馬術部と関われます事は大変名誉な事であります。

歴代の監督から受け継いだバトンを、次世代に渡していく責任を重く受け止めています。現在、馬術部は綱島総合グラウンドから、仮住まいである横浜市瀬谷区のアシェンダ乗馬学校に練習の場を移し、新たな馬場が出来上がるのをひたすら待ち望んでおります。

過去の歴史を振り返って見ても「馬場移転」が出てまいりますが、今回も綱島の馬場より良い練習の場が出来上がるものと期待し、関係各位の方々に新馬場をお披露目できる日を楽しみにしております。

しかしながら、馬術部のおかれた状況は厳しいものでありますが、試練の時とこころえ、神の前に真実に生き、真理を謙虚に追求し、愛と奉仕の精神をもって、全ての人と社会とに対する責任を進んで果たす人間の形成を目的とする青山学院の建学の精神のもと、馬を愛し、飼育する事を通して一日一日を大切に、上を目指して練習に励み努力してまいりますので、今後とも現役の為にご指導、ご支援下しますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

馬術部ヘッドコーチ

高柳　徹三

（平成五年卒）

## コーチ挨拶

私が前ヘッドコーチの田中さんに頼まれてコーチを引き受けてから十年目にはいりました。そしてヘッドコーチ就任六年目となりました。

コーチになってすぐのころは高校生を主に面倒見ていて高校の競技成績は上がりました。しかし大学生に対しては現役の延長と言う感じでやっていました。そのため、現役たちもコーチと言うより一人の先輩として接していたと思います。田中コーチがおやめになってヘッドコーチを引き受けた時、このままではいけないと思いましたが、どうにも先の事を読む余裕がなかったのでその場の事ばかりを考えてしまってコーチとして未熟であったと思います。

しかし仕事の方でも乗馬倶楽部を管理する立場になり、いろんな人

の話を聞いたり、本を読んだり、また自分がやってきたことを振り返った時に、自分が何をすべきかと言うのがだんだん見えてきました。

現在は部員が少なかったり、厩舎は仮住まいで練習時間が制限されたり、経済状況も厳しかったりと大変ですが、そんななかでも昨年はよい成績を残せたと思います。

少ない人数でも部員同士が協力しあって監督・コーチともども一丸となって頑張っていきたいと考えています。

緑鞍会の皆様にはこれからもご指導、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

## 主将挨拶

主将　高遠　あゆ子

今年度、主将を勤めさせて頂きます法学部4年の高遠あゆ子です。創部八十周年という大きな節目の年にあたりますことを大変光栄に思うとともに、重責に身が引き締まる思いです。

八十年というとても長い年月の中、どれだけ沢山の方々、そして馬達がこの馬術部に携わっていたのでしょうか。普段は意識することがあまりなくとも、OB会等で様々な方々にお会いしたり、馬場の倉庫の馬具に書いてある名前や古い写真などで知らない馬たちを見つけると、みな馬術部としてつながっているのだなあと思うと不思議な縁を感じます。それとともに、それだけ沢山の皆様や馬たちに支えられていることに大きな温かみを感じます。

今、私たちは新しい馬場ができるまでOGの北井さんのアシェンダ乗馬学校で活動させていただいています。部員数が少ないのですが、その分団結して、団体の成績を残していきたいと思います。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

## 高等部主将挨拶

高等部主将　山本　邦子

私達高等部馬術部は男子2名、女子5名の計7名で活動しています。毎週土曜日は横浜乗馬クラブで、高等部コーチである太田恵美子さんの馬や横浜乗馬クラブで活躍しているRDA横浜の馬をお借りしています。RDA横浜は障害者乗馬のボランティアをしている団体で、私達部員もボランティアに参加しています。

自分たち自身が馬に乗って得られる喜びとは違い、馬によって人の役に立てる喜びも得ることができます。このボランティアを通して、動物と触れ合うことが人間の日常生活にどれほど大切かがよくわかりました。

日曜日はアシェンダ乗馬学校で、大学馬術部の皆さんと活動しています。たくさんの馬に乗ったり世話をして、馬一頭一頭が違うということを再認識しています。12月・4月には試合に出させていただき、出場した部員だけでなく出場できなかった部員も、練習を重ねもっとうまくなりたいという思いが強まりいい刺激となりました。

一時は廃部かと思われた高等部馬術部は、顧問の佐藤先生・大塚監督・太田さん・高柳さん・高等部コーチの皆さん・OBOGの方々・大学馬術部の皆さんやたくさんの方々によって、何とか廃部の危機は脱しました。

まだまだたくさんの問題が残っていますが一つずつ解決していきたいと思っていますので、これからも御指導よろしくお願いいたします。

祝 青山学院大学体育会馬術部
創部80周年

関東学生馬術協会

会長　土橋　武雄

東京都千代田区神田駿河台1-2
馬事畜産会館 03-3291-9971

祝　青山学院大学体育会馬術部 80周年

21世紀のエコロジーを求めて

爽やかな職場環境

安らぎの住環境

清らかな地球環境

『椅子道楽』

エコメイトのホームページへどうぞ！
URL　www.ecomate.co.jp
E-mail　info@ecomate.co.jp

株式会社 エコメイト
代表取締役　福原みさと　(昭和31年卒)
〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-42-2-502
TEL 03-5950-4371　FAX 03-5950-4372

祝　馬術部創部80周年

不動産のことなら

YANAKAコーポレーション株式会社

代表取締役　谷中 基美　(昭和41年卒)

東京銀座支店　〒104-0061 東京都中央区銀座6-12-2
東京銀座ビルディング601号室
TEL 03-3569-0801　FAX 03-3559-0803
携帯電話　090-3905-7019

HEAD OFFICE　Suite A-2, 1232 Waimaru Street,
Honolulu, Hawai 96814　USA
E-mail : gpmi@nifty.com

Yokohama La Hacienda

# アシェンダ乗馬学校

オフィシャルホームページ

http://www.la-hacienda-yokohama.com

神奈川県横浜市瀬谷区阿久和西1-6-5

TEL 045(363)2501

木製建具工事、アルミサッシ工事
襖・内装工事、家　具　工　事

**株式会社 サトナカ建装**

代表取締役 里 中 郁 男（昭和45年卒）

〒170 東京都豊島区駒込 6－34－2
TEL 03－3918－0336
FAX 03－3918－0037

LEVI'S® STORE
DOCKERS
CIMARRON
MISS SIXTY
Inc's international collection
Xinc international collection
EIKO

We are the creater of jeans fashion business.

**EIKO SHOJI CO.,LTD.**
5-38-15 Jingumae Shibuya-Ku Tokyo
Tel : 03-5467-5011
URL : www.e-jeans.co.jp

# 80年を彩る馬たち

それぞれの馬がいました。
仲間がいました。
八十年の時の中に、空の下に。
それぞれの匂いが帰ってきます。
音が帰って来ます。
寝藁、乾草、ボロの匂い、蹄の音、号令、
そして嘶きの声。

共に過ごすことのできた人と馬との短い時間の積み重ねが八十年という歴史を作り上げてきました。大正の末、馬術部を立ち上げ、大戦を経、更には終戦の混沌を乗り切り、借り物の馬と馬場での活動にも負けず、遂には馬場を、自馬を持ち、そして現在に至っております。

今ここにある馬術部の礎を創り、育て上げ、多大なご協力ご支援、そして尽きる事の無い情熱を注いでいただいている諸先輩に心より感謝すると共に、過ぎ去った日々、同じように支えて頂き今は既に天国に召された方々への感謝を引き継ぎながら、この場をお借りして、あらためてご冥福をお祈り致します。

今回は、その時々に部員と共に過ごした馬達にスポットを当てて、それに纏わる思い出などを主軸とした記念号としておりますが、比較的新しい昭和四十年代以降の馬たちが主役となっております。

かって発刊されました「いななき」の三号から十五号を入手出来ましたので、それらを一枚のCDに転換、保存いたしました。この中に数多く、昔懐かしい馬達の記載が残されておりますので彼等の登場は皆様のパソコンの中に委ねることに致しました。よろしくご理解の程、お願い致します。

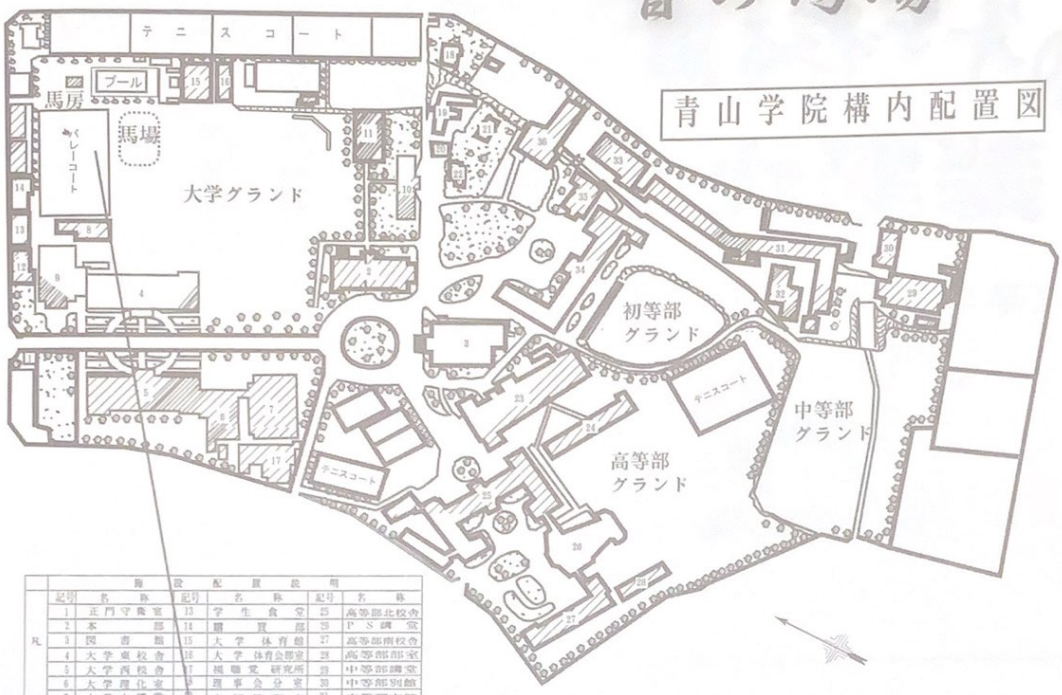
尚、CDをご希望の方はご一報下さい。又、もし「いななき」一号及び二号をお持ちの方は是非にもお知らせ頂きたくお願い申し上げます。

平成十五年七月

いななき編集委員一同

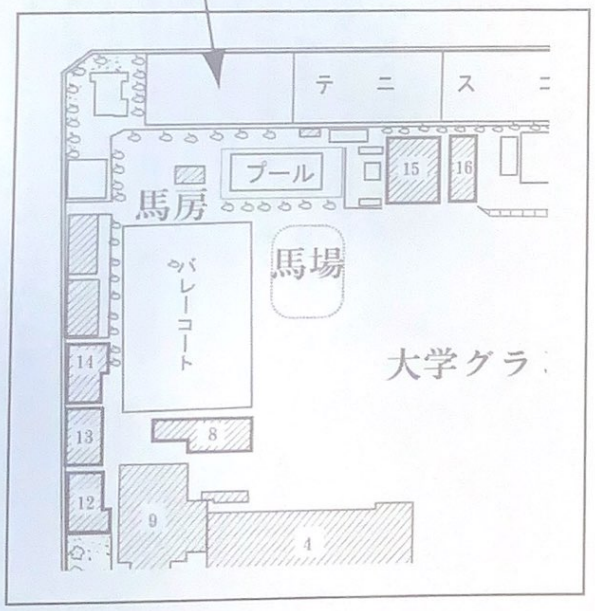
# 昔の馬場

## 青山学院構内配置図




凡例

| 記号 | 名称 | 記号 | 名称 | 記号 | 名称 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 正門守衛室 | 13 | 学生食堂 | 25 | 高等部北校舎 |
| 2 | 本部 | 14 | 購買部 | 26 | PS講堂 |
| 3 | 図書館 | 15 | 大学体育館 | 27 | 高等部南校舎 |
| 4 | 大学東校舎 | 16 | 大学体育会部室 | 28 | 高等部部室 |
| 5 | 大学西校舎 | 17 | 機動隊研究所 | 29 | 中等部講堂 |
| 6 | 大学理化室 | 18 | 理事会分室 | 30 | 中等部別館 |
| 7 | 大学大講堂 | 19 | 本部管理室 | 31 | 中等部本館 |
| 8 | 大学階段教室 | 20 | 自動車車庫 | 32 | 中等部図書館 |
| 9 | 大学小講堂 | 21 | 宣教師住宅 | 33 | 中等部体育館 |
| 10 | 大学院研究室 | 22 | アイグルハート館 | 34 | 初等部本館 |
| 11 | 大学院講義室 | 23 | 女子短期大学本館 | 35 | 初等部講堂 |
| 12 | 大学学友会倶楽部 | 24 | 女子短期大学別館 | 36 | 初等部新館 |




昭和32年（1957年）頃の学院構内図です。学院資料館にてコピーさせて頂きました。
左上隅、プールの脇に小さな建物が見えますが当時の馬房だそうです。
（岩崎修氏談）

下図は、それを拡大したものです。当時、校庭で練習されたOB・OGの皆様にとっては大変懐かしく、又貴重な資料だと思います。

余談ですが、学院の敷地は明治16年に松平左京大夫（伊予西条藩下屋敷）邸を購入したものですが、現在も、当時と殆ど敷地の形状は変わっていないようです。

# 記憶（馬と部生活）

堀内陽一
（昭和二九年卒）

私の生まれは横浜の本牧で、数え五歳頃迄はそこに以降成人して世帯を持つまでは山手に近い麒麟ビール記念公園の在る一画に居住した。その五歳頃のある日、親父が庭で家族の写真を撮っていると、騎乗した二人の憲兵に垣根越しに見つかり注意された。（注、当時は、横浜のこの地域での屋外での写真撮影は一切禁じられていた。）五歳の私は、憲兵の騎乗姿に憧れた記憶がある。又、小港と八聖殿の中間の位置に現代に比較しても立派な乗馬クラブがあり時折、馬場馬術や障害飛越を見に訪れた。（昭和一二年～一三年頃、六歳～七歳）

私が中学二年生（県立旧制中学）になった昭和二〇年春、我々学徒は徴用されて横浜郊外地区で首都防衛の為の陣地構築に従事させられ、満州より呼寄せられた関東軍の指揮下におかれた。我々の直属の指揮者は下士官であった。彼は昼食時になると馬を駆けて我々のところに来て昼食（地面に車座になって持参の弁当）を共にとった。馬上豊かな下士官殿と当時は見受けられた。この作業も二ヶ月が過ぎようとした同年五月二九日に横浜は大空襲に見舞われ一日にして廃墟となった。その一部始終を我々は戸塚に在る丘の上で見ていたのである。約二時間に亘って、二五万発以上の焼夷弾が旧横浜市街に投下されるのを。そして同年八月一五日大東亜戦争が終戦となった。

翌年（昭和二一年）の秋、学友のM君が来て一つ先の丘（鷺山？）に乗馬倶楽部が出来たが訪ねてみないかと誘われた。訪ねて見ると倶楽部名・横浜乗馬倶楽部、（後の同名の倶楽部とは関係なし）教官（クラブ所有者）一人、馬丁一人、馬三頭とこじんまりした倶楽部であった。しかし当時の世情（戦後約一年強、衣食住がままならぬ時）を考えると感嘆せざるを得なかった。その教官は、元日本陸軍獣医大佐で、中支において騎兵師団に所属していたと思われ、帰還して倶楽部を開いた心底から馬が好きな親父風であった。我々は早速入会した。私の乗馬はここから始まり、それは旧日本陸軍騎兵隊式であった。ここで二年弱訓練を受けた。といっても日に一～二鞍騎乗し、あとは友人と交代で馬匹の使役に従事する日課であった。会員数はちらりほらりで、教官の指導は実に丁寧であった。その後、某大学の馬術部関係者よりの誘いで、栗田谷乗馬倶楽部にも通った。ここより学生馬術に第一歩を踏み入れる事となった。

**（昭和二五年度）** 昭和二五年春、私は青学・商学部に入学した。しかし体育会には馬術部は存在しなかった。

**（昭和二六年度）** 昭和二六年春、校庭の片隅に『乗馬同好会会員募集』の張り紙を見つけた。発起人は植松英二とあった。取敢えず申し込み、後日の会員の集合場所を聞きその当日参加した。集合場所は代々木の東京乗馬倶楽部であった。

記憶に残る当日参集した人々は、植松英二、新城直樹（以上昭28卒）、私と中島貞夫（昭29卒）、森健、宮坂悠二（以上昭30年卒）等で、ここに集った人々がこの乗馬同好会を馬術部復活へ、そして学生馬術連盟に加入して東都大学リーグへの出場するまでの礎を植松先輩を中心に築いたのである。勿論、戦前・戦中の諸先輩方の多大なるご支援を賜った事はいうまでもない。

（注）新城先輩の当時の姓名は、沈廼濱　である。

東京乗馬倶楽部での我々の訓練は、この倶楽部の山本教官の下、倶楽部の馬を借りて行われた。一方、明治大学や中央大学等は、自馬一～三頭をこの倶楽部に寄託し、この倶楽部の馬場で夫々の学校の部の監督の下で訓練・練習に励んでいた。我々はそれを羨望の眼で見ていた事は間違いない。又、自馬を持たない学校は学生馬術連盟に加入出来ない問題もあった。

梅雨が明けた頃、『遠乗り会』が開催された。御殿場にて馬を借り受け、御殿場 → 箱根芦ノ湖（湖尻にて野営）→ 御殿場 の行程であった。(注)この件、『いななき七号』の植松先輩の投稿文参照。

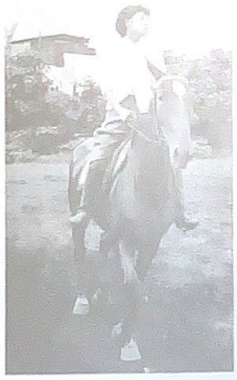
当時の「遠乗り会」での１コマ

新城（沈）
不明
堀内
植松

『遠乗り会』後、自馬を一頭購入する事となった。購入費は部員より夫々都合をつけられる額を徴収し、先輩各位に寄付をお願いし更に部員の父兄より借入金をなして捻出したと記憶している。但し、その借入金が返済された記録と借入金計上の記録も過去から現在まで見当らない。従って、結果的には馬匹購入の為の帳簿外の寄付となったと見受けられる。

買い付け地は静岡県御殿場であった。運搬は、馬運車使用など考えられない時代であり（経済状況等でもあり）、会員によるリレー運搬となった。第一、第二騎乗者（御殿場～国府津～横浜、途中一泊）騎乗者（森健、宮坂悠二）
第三騎乗者（横浜 ～ 青学本校）
第四騎乗者 （青学 ～ 東京乗馬倶楽部）
と記憶している。騎乗者と言っても、その殆どを長靴を履いて歩いていたのである。

私は、第三騎乗を担当した。朝八時過ぎ、横浜の保土ヶ谷で宮坂から馬を引継ぎ、横浜の自宅に連れて帰り庭で飼い付け等なし夕刻迄休ませた。



自馬第一号「青峰」の練習風景。 騎手は梅本元子氏

渋谷に向けて出発したのは、夜一〇時頃であった。桜木町駅→横浜駅→東神奈川→反町を経た所で曳馬とし、中原街道を黙々と無心に歩いた。人家の明かりも消え所々にある街灯がたよりの道のりであった。時々振り返り馬を見ると私の背中に鼻が付く程の近距離で馬も無心に歩いていたのである。翌朝九時頃青学に無事到着し、次の騎乗者に引き継いだ。そして、その日の中に東京乗馬倶楽部に運ばれ、同倶楽部に寄託した。

時は、昭和二六年の盛夏の季節であった。この馬が『青峰』と命名され、青山学院体育会馬術部の初代の自馬である。

同年の秋、乗馬同好会が体育会に所属する事が出来て馬術部となった。

顧問に鳥居教授、部長に植松英二、主将は私が仰せつかり、会計に小池啓之が就任した。（翌年から顧問に土田三千夫先生、部長は、新城直樹、主将、留任 会計、留任となった。）

この時代、体育会の各部の組織は学生の部長が部全体のマネージメントを行い、主将は競技等に関する事が主たる任務となった。但し、当部は他の部に比し特異性もあり諸業務がそれぞれ分担制にならざるを得なかった。

(附記) 体育会よりの補助金の件であるが、当部への予算は、昭和二六年度はなし。 昭和二七年度は四万円弱、昭和二八年度は、五万円強で自動車部より

低かった。　参考までに、昭和二八年度の青学の野球部への予算は、一〇〇万円強で最高額、東都大学リーグ他校の野球部の予算は一〇〇万円～二〇〇万円が相場であった。　又、慶応大学馬術部の予算はOBの寄付も含めて、二〇〇万以上との噂であった。

学生馬術連盟に加入が許された青学は、東都大学リーグ戦への出場資格も得て、昭和二六年一二月中旬開催の秋季リーグ戦より出場した。戦後初の公式戦出場である。

各校自馬二頭を持ち寄っての貸与馬による障碍飛越競技団体戦である。当校の自馬は一頭、どの様にして参加出来たか、参加したかは、現在では記憶の彼方である。出場参加校は、青学、学習院、慈恵医大、専修、日大、農大、農工大　中央、計八校で場所は学習院の馬場であった。

出場部員は、植松、新城（昭24年入）堀内、中島、菊池（昭和25年入）森、宮坂、米谷（昭26年入）計八名中、各試合五名選抜での競技だったと記憶する。全員競技に参加できる様又勝負にこだわる様、各試合毎に提出する騎乗者表の作成に頭を悩ませた。戦績は下位より二番目であった。

年が明けた正月（昭和二七年）の某日、伊藤啓子（昭29卒）が私を訪ねて来た。その用件は、馬に乗りたいとの事であった。入部させ、馬術部の初代の女子部員となった。暫らくして、長靴、キロット、乗馬服等を誂えて乗りに来た。初の経験との事であった。その後時折乗っていたが、それが卒業まで続いたかは記憶にない。

（余談）我々昭29卒は、不定期ながら商学部・文学部合同の同窓会が行こなわれている。最近は平成一三年、その前は平成六年に開催された。その平成六年の会で、彼女に四〇年ぶりに会った。彼女の弟と私の弟が友人である事も含めて共に日本酒をグラスで傾けながら長話をした。彼女は美味しそうに飲んでいた。その節、彼女は体調が不調である（血糖値が高いと）と漏らしていた。その数年後彼女の他界の訃報を人伝てに聞いた。

『ご冥福を祈る』

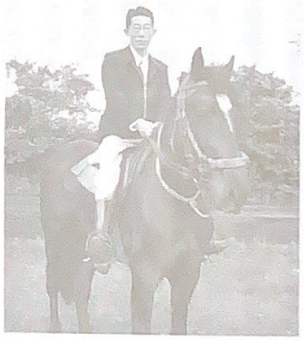
一月の中旬、東京乗馬倶楽部でOB対　現役戦が行われた。これが、以降の『**初乗り会**』の元祖となった。

注）この件、『いななき七号』の植松先輩の投稿文参照。

**（昭和二七年度）**昭和二七年四月よりのこの年は、多事・多難そして多忙・多彩な年度となった。

顧問に、土田三千夫先生が就任された。最初の打ち合わせ会の席で、先生より遠乗りに連れて行って欲しい旨のお申し付けがあった。有志部員数人と御殿場に行きその一昨年より世話になっている農家で馬を調達し、富士の裾野を駆けた。先生は乗馬の経験は持っておられた。帰りの御殿場線の車中で先生を囲んでカードゲームをした。先生の横に私、対面に菊地昭春（昭29卒）斜め前にX（記憶なし）が座した。私が『何か賭けましょうか？』と言った。先生は、『教師と生徒が賭けをしてどうする』と呆れ顔で叱責された。

（余談）右記の事が影響したかどうかは不明なれど、先生の簿記の単位を頂くのに二年の歳月を要した。又、この事とは無関係ではあるが私が所帯を持つ時の仲人を先生は快くお引き受け下さった。



御殿場へ遠乗りされた時の珍しい
土田部長（当時）の乗馬姿

**（新入部員）**

この年の入部者の数は豊作であった。女子部員の多数応募を得たからである。男子部員は、東雄三郎、藤根威等であり、次の時代の中核者であった。女子部員は、平木茂子、梅本元子、福原美里、日高玉恵等であり、三年後に彼女達が発起人となり関東女子馬術連盟が結成された事は周知の通りである。

『いななき一三号』福原美里　『いななき一四号』梅本元子の投稿文参照
（附記）後に判明した事ではあるが、いななきのＯＢ・ＯＧ名簿を辿ると、
日高玉恵（昭31年卒）日高妙子（昭35年卒）とある。
初代の姉妹部員であり、初代の父子部員はと探すと、
内藤長一（大14年卒）内藤喜嗣（昭33年卒）となる。
又初代の夫婦部員（卒業後結婚）は、
堅村昭三（昭34卒）と　堅村美恵子（昭36卒）となる。
初代の兄弟部員に付いては、解明出来なかった。

**（対外試合）**

この年度より公式対外試合は左記の試合に出場した。
東都学生馬術春季リーグ戦　戦績は、三位であった。（いななき七号　森健談参照）
東都学生馬術秋季リーグ戦　戦績は、優勝でも最下位でもない中位の記憶のみ。
（於、学習院大馬場）
四大学馬術定期戦（第一回）参加校は、青学、日大、農大、農工大
（於、日大馬場）
戦績は、記憶なし。
関東学生馬術大会（初参加）戦績は、三部優勝。
（いななき七号　森健談参照）
（於、馬事公苑）

**（馬匹の購入・馬房の移転）**

この年の六月頃二頭目の自馬『青姫号』、秋頃三頭目の自馬『青兎号』が購入された。買付け地は御殿場である。それらの運搬は森健、宮坂悠二、東雄三郎と藤根威のリレー方式でなされた。
部の財政状態は火の車で負債が嵩む一方となった。東京乗馬倶楽部への寄託料（馬房使用料）の支払いが出来なくなり、学校当局の許可も得ずに、学校構内に架設の馬房を造って引っ越した。秋迄には、土田顧問、戦前のＯＢによる学校当局に対するお口添えを頂き、小さいながらも新しい厩舎（部室と宿泊室付き）が建設され、狭きながらの馬場も与えられた。（青学本校内に）
（編集者注　当時の青学校内図参照）

**（部の収支改善の為の催事）**

前項で記した通り部の財政は最悪であった。従って以下の行事が立案、実行された。

① 部費稼ぎの為の、新部員獲得。年度始めのデモストレーション等による、男女を問わない新入部員の獲得。多数の女子が入部して来た。

② 社交ダンスパーティーの開催　（於て、高輪プリンスホテルの一階大広間）
出演バンドは、フルバンド（昭和二六年より始まったＮＨＫ紅白歌合戦に出演バンドの一つ）であった。
（余談）紅白歌合戦は当時はラジオ放送のみで、ラジオとＴＶでの放送は昭和二九年より。
歌手は既に名が売れていた、ペギー葉山（昭26年高等部卒）が友情出演した。
パーティー券は、各部員に二〇枚～三〇枚割り当てのノルマ販売とした。
会は大盛況であった。ダンスの好きな私も一曲も踊る暇がなかった。中二階に在る統括情報席に座していなければならなかったので。
（付記）この様な行事が、次代の部員により三～四年後再度行われたと記憶する。

③ 音楽会の開催　（於て、青学・ＰＳ講堂）
出演は、
(1)ハワイアン　バンド（青学の学生が結成したプロバンド）とフラダンス　ティーム
(2)カントリーウェスタンバンド（青学の学生が結成したプロバンド）
(3)友情出演として、平岡精二（昭29卒）　日本で草分けのヴィブラフォン奏者。彼の父　平岡養一　は、世界的に有名な木琴奏者。
(4)その他
司会、ＥＨエリック　（当時司会業の人気者）
（付記）エピソードとして、当日司会者のＥＨエリック氏が現れなかった。ダブルブッキングか？　急遽、新城先輩がそれを代行して事無きを得た。
観客は、二階の席まで満席の様子であった。
又、ＰＳ講堂の舞台でフラダンスを踊らせた事が学校当局で問題となり、始末書提出の破目になった。誰が署名捺印して提出したかは不明である。